

「伊勢市環境基本計画」の検証結果

基本目標毎の関連する「みんなのまちの計画」の指標の達成状況

| 伊勢市環境基本計画の基本目標 | 関連する「みんなのまちの計画」の指標 | 指標の内容 | 単位 | 計画策定時 H19 | 現状値 H20 | 現状値 H21 | 現状値 H22 | 現状値 H23 | 現状値 H24 | 目標値 H24 | 目標達成状況 |
|------------------------------------|------------------------------|--|------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|------------|
| 地球環境に配慮した、資源やエネルギーが大切にされる、循環型社会のまち | 省エネを実践している人の割合 | 伊勢市内において省エネを実践している（冷暖房の設定温度を調整する、こまめに照明を消すなど）人の割合 | % | 84.6 | 85.8 | 87.4 | 82.9 | 91.5 | 88.3 | 90.0 | 未達成 |
| | 新エネルギーなどを利用している人の割合 | 伊勢市内において新エネルギーなどを利用している人の割合 | % | 17.1 | 16.5 | 15.6 | 16.1 | 19.6 | 18.2 | 30.0 | 未達成 |
| | 可燃ごみ量 | 焼却処理しなければならないごみの量 | トン | 46,643 | 44,655 | 44,594 | 44,015 | 42,426 | 42,814 | 39,600 | 未達成 |
| | 最終処分量 | 最終処分場での埋め立て量 | トン | 1,017 | 585.8 | 410.2 | 438.9 | 211.8 | 186.0 | 129.0 | 未達成 |
| 豊かな自然が守られた、水と緑と人が共生する魅力あるまち | 空気がきれいだと感じる人の割合 | 伊勢市の空気をどう感じているか（満足しているか） | % | 60.7 | 61.7 | 62.1 | 64.5 | 66.9 | 65.6 | 70.0 | 未達成 |
| | 自然風景に対する満足度 | 自然風景の保全や創出の状況 | % | 48.8 | 56.0 | 48.1 | 45.1 | 53.2 | 45.2 | 52.0 | 未達成 |
| | 山の自然が守られていると感じる人の割合 | 山の自然が守られているかどうか（原生林が残されている、手入れが行き届いてあるべき状態が保たれているなど） | % | 31.1 | 37.0 | 30.9 | 36.7 | 43.0 | 33.9 | 50.0 | 未達成 |
| | 山に親しみをを感じる人の割合 | 伊勢市の山に親しみをを感じる（山に遊びに行きたいと思うなど）人の割合 | % | 40.2 | 42.3 | 40.0 | 42.5 | 41.4 | 45.0 | 50.0 | 未達成 |
| | 川の自然が守られていると感じる人の割合 | 川の自然が守られているかどうか（きれいだ、魚や昆虫など生きものがいるなど） | % | 30.5 | 34.7 | 33.6 | 35.2 | 41.9 | 33.9 | 50.0 | 未達成 |
| | 川に親しみをを感じる人の割合 | 伊勢市の川に親しみをを感じる（川に遊びに行きたいと思うなど）人の割合 | % | 37.3 | 44.1 | 40.3 | 41.2 | 44.4 | 43.6 | 50.0 | 未達成 |
| | 海の自然が守られていると感じる人の割合 | 海の自然が守られているかどうか（きれいだ、魚や昆虫など生きものがいるなど） | % | 18.5 | 20.5 | 20.7 | 24.3 | 24.2 | 25.2 | 30.0 | 未達成 |
| | 海に親しみをを感じる人の割合 | 伊勢市の海に親しみをを感じる（海に遊びに行きたいと思うなど）人の割合 | % | 33.6 | 35.7 | 32.0 | 39.2 | 30.8 | 37.7 | 50.0 | 未達成 |
| | 勢田川のBOD値 | 勢田川の水質がきれいかどうか | mg/l | 4.4 | 7.2 | 5.0 | 2.6 | 3.7 | 3.7 | 3.0以下 | 未達成 |
| | 伊勢湾伊勢地先のCOD値 | 伊勢市の海がきれいかどうか | mg/l | 2.4 | 2.6 | 2.7 | 3.0 | 2.9 | 3.0 | 2.0以下 | 未達成 |
| | 下水道（汚水）の普及率 | 快適な水辺環境空間の形成に不可欠な“水”がきれいになる（保たれる）環境であるかどうか | % | 26.1 | 27.4 | 29.7 | 32.8 | 38.1 | 41.2 | 41.0 | 達成 |
| | 合併浄化槽の普及率 | 同上 | % | 24.5 | 26.8 | 19.7 | 26.9 | 31.5 | 33.4 | 30.0 | 達成 |
| | 農用地の面積 | 農地の保全状況 | ha | 2,273 | 2,272 | 2,265 | 2,261 | 2,255 | 2,255 | 2,255 | 達成 |
| | 遊休農地の割合 | 良好な田園風景の保全や創出の状況 | % | 3.1 | 2.6 | 3.1 | 3.1 | 3.8 | 4.6 | 1.5 | 未達成 |
| 歴史・文化の薫る、快適に暮らせるまち | 騒音が気になる人の割合 | 伊勢市内で騒音が気になる人の割合（上段：昼間、下段：夜間） | % | 29.9 25.3 | 27.8 25.5 | 30.4 26.1 | 26.9 23.3 | 28.4 30.6 | 29.5 25.7 | 20.0 15.0 | 未達成 未達成 |
| | ごみの回収が街の美観に配慮されていると思う人の割合 | ごみの回収が街の美観に配慮されていると感じる人の割合 | % | 74.6 | 76.3 | 72.6 | 75.0 | 84.3 | 83.2 | 80.0 | 達成 |
| | 公衆トイレの管理が街の美観に配慮されていると思う人の割合 | 公衆トイレの管理が街の美観に配慮されていると感じる人の割合 | % | 19.1 | 24.4 | 24.2 | 22.9 | 22.6 | 28.0 | 50.0 | 未達成 |
| | 衛生的と感じる人の割合 | 街が衛生的であるかどうか | % | 19.1 | 19.1 | 22.3 | 18.6 | 20.9 | 21.7 | 50.0 | 未達成 |
| | 都市景観に対する満足度 | 歴史・文化を活かした都市景観の形成状況 | % | 36.3 | 45.3 | 42.2 | 43.2 | 43.3 | 44.4 | 40.0 | 達成 |
| | 花と緑に関する満足度 | まちなかにおいて花と緑が十分にあるかどうか | % | 35.7 | 46.9 | 38.3 | 41.6 | 39.8 | 39.9 | 40.0 | 未達成 |
| | 公園に対する満足度 | 公園の充実度合い | % | 29.9 | 33.5 | 30.3 | 30.1 | 25.3 | 30.1 | 35.0 | 未達成 |
| 協働でつくる、人と環境にやさしいまち | 環境講座数 | 環境活動の基礎となる学習環境の広がり | 講座 | 10 | 7 | 13 | 17 | 17 | 17 | 20 | 未達成 |
| | 環境教育授業数 | 小中学生に対する学習環境の広がり | 時間 | 6 | 8 | 7 | 13 | 7 | 7 | 6 | 達成 |
| | 環境教育を受ける機会があった人の割合 | 環境関連の講座の認知度 | % | 45.0 | 47.0 | 43.8 | 39.8 | 39.4 | 41.5 | 60.0 | 未達成 |
| | 環境保全のための行動をしている人の割合 | 環境を守るため何らかの行動（植樹活動・地域でのごみ拾いなど）をしている人の割合 | % | 32.8 | 29.7 | 25.3 | 27.0 | 24.8 | 21.4 | 50.0 | 未達成 |
| | マイバッグ持参率 | 環境保護活動の一つの生活実態として、スーパーなどで買い物の際に、マイバッグを持参して買い物をした人の割合 | % | 90.4 | 89.8 | 92.0 | 92.0 | 91.6 | 91.4 | 95以上 | 未達成 |

「伊勢市環境基本計画」に基づく事業実施概要

| 基本目標 | 大項目 | 主な取組み |
|------------------------------------|---------------|---|
| 地球環境に配慮した、資源やエネルギーが大切にされる、循環型社会のまち | 計画的な推進体制の確立 | <p>○平成 24 年 12 月に「伊勢市地球温暖化防止実行計画」を策定した。</p> <p>○計画においては、2020 年における目標として、当時の国の目標「1990 年比で 25%削減」及び三重県の目標「2005 年比で 20%削減」を踏まえ、「2007 年度比で 30%削減」を掲げ、取組みを進めることとしている。</p> |
| | 資源・エネルギーの有効活用 | <p>【太陽光発電】</p> <p>○住宅等における太陽光発電設備の設置促進を目的とした補助金を交付している。交付実績については、平成 13 年度から平成 21 年度までの 9 年間で 398 件、平成 22 年度から平成 24 年度までの 3 年間で 833 件、合計で 1,231 件となっている。</p> <p>○公共施設においては、平成 22 年度以降に 9 施設（約 180KW）を整備し、平成 24 年度末時点で、小中学校を中心に 21 施設、約 380KWを導入しているほか、公園・道路における照明等にも導入を行っている。</p> <p>【電気自動車等】</p> <p>○平成 24 年 8 月、電気自動車等を活用した移手段の新たな使い方を検討し、取組を進めることで「低炭素で豊かに暮らせる伊勢」を創造することを目的として、「電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会」を三重県の支援を受けて設立した。協議会では、平成 25 年 3 月に行動計画「おかげさま Action！ ～住むひとも、来たひとも～」を策定し、参画する事業者等と連携し取組みを進めることとしている。</p> <p>○平成 25 年度においては、NTN株式会社からの超小型モビリティ 5 台の貸与、ええやんか！マイバック（レジ袋有料化）検討会からのコムス（トヨタ車体の超小型モビリティ）4 台の寄贈等を受け、電気自動車等が活用されている姿を多くの市民、観光客に見ていただけるよう取組みを進めているほか、三重交通株式会社における大型の電気自動車バスの導入、充電施設のピクトグラム等のデザイン公募・選定、充電施設の整備指針づくりや超小型モビリティを活用した観光の検討などを行っている。</p> <p>○電気自動車 2 台の導入、充電施設の整備を行い、環境フェアや伊勢楽市等において、非常時における電源としての電気自動車の活用などの PR 活動を実施している。</p> <p>【資源・エネルギー循環利用】</p> <p>○「生ごみの資源化（バイオガス化）」事業化の是非等について検討を行ってきたが、平成 24 年 11 月「現状においては、資源化施設の建設の他、現焼却施設においても多額の改修費を要することから事業化の好期とは言えず、実施は困難」と現時点での事業化の是非について判断するとともに、「今後のごみ処理においては、資源化の推進及び処理施設の高効率化が欠かせず、また、平成 21,22 年度に実施した生ごみの分別収集実験における住民の高い協力度からも、生ごみの資源化（バイオマス化）については、重要な検討事項であり有効な選択肢のひとつ」と位置付けた。</p> <p>○天ぷら油のバイオディーゼル燃料及び公衆浴場組合の助燃材としての再利用のため、天ぷら油の回収を行っており、平成 21 年度の 21,978 リットルが、平成 24 年度には 30,165 リットルと約 1.5 倍に回収量が増加しているが、平成 26 年度の目標値 82,000 リットルとは大きな差がある。</p> <p>【省エネルギー】</p> <p>○公共施設において、LED照明の導入や窓へのフィルム貼付、ボイラー改修等の省エネ改修を、施設の状況に応じて順次進めているほか、平成 23 年度からは、60 を超える公共施設において、夏季のグリーンカーテンの設置に取り組むなど、一事業者としての省エネに取り組んでいる。</p> <p>○一般社団法人日本自動車連盟（JAF）との連携による市民向けのエコドライブ講習会の開催（平成 23 年度から開始、年 2 回）や、三重県地球温暖化防止活動推進センターとの連携により、環境フェアにおいて省エネ診断を実施する等、専門機関との連携による啓発活動を実施している。</p> |
| | 3R の推進 | <p>【レジ袋有料化の取組み及び収益金の活用】</p> <p>○「レジ袋大幅削減のためのマイバッグ持参運動」以降、スーパーマーケットなどでレジ袋の受け取りを辞退する方は、来客者の 90%を超えており、購入者の高い意識がうかがえる。</p> <p>○レジ袋の有料化により事業者が得た収益金は「ええやんか！マイバック（レジ袋有料化）検討会」に収納のうえ、環境活動を行う団体などへの助成金として交付、または、電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会へコムス（トヨタ車体の超小型モビリティ）4 台及び活用により、市内の環境改善、意識向上等に貢献している。</p> <p>【ごみ収集方法等の統一】</p> <p>○平成 21 年 7 月に策定した「ごみの収集方法等の統一に関する基本方針」により、平成 17 年の市町村合併前から旧市町村毎に行われていたごみの収集方法などを、市民の利便性や負担の公平性、収集の効率性などの観点から市全域において統一することを目標として制度設計や地域での説明会に取り組んできた。</p> <p>【啓発活動】</p> <p>○自治会からの推薦により、廃棄物減量等推進員を委嘱し、ごみの減量、資源化の促進について、地域での啓発などに取り組んでいる。</p> <p>○再生資源回収事業奨励金として、自治会などの団体が紙類や金属缶類を回収、資源化する活動を支援することで、適正な排出を啓発している。</p> <p>○自治会や小学校などに出向いてごみの減量や資源化について説明会などを開催し、小中学生から募集したポスター等により市民に直接、啓発している。</p> |

| 基本目標 | 大項目 | 主な取組み |
|-----------------------------|--------------|--|
| 豊かな自然が守られた、水と緑と人が共生する魅力あるまち | 自然環境の保全 | <p>【自然環境の保全】 ○水産資源の保護・培養の他、水質浄化などの役割を持つ干潟等において、地区漁業者が中心となる活動組織が行う耕うん、稚貝の沈着促進等の保全に係る活動を支援した。 ○河川整備においては、環境に配慮した護岸ブロックを使用し、植生の復元に努めている。</p> <p>【生活排水対策】 ○下水道整備について、平成 23 年度から平成 27 年度を計画期間とする第 3 期事業計画に基づき、整備を進めている。 ○合併処理浄化槽の設置について、年 400 件以上、補助金を交付し普及を図っている。なお、三重県による新築家屋への補助金が平成 25 年度に減額、平成 26 年度に廃止されることとなったが、市の補助金については、下水道区域との公平性等から新築家屋についても継続して補助することとしたほか、平成 25 年度からは、単独浄化槽や汲み取りからの切り替えに要する撤去費等に対する補助（単独浄化槽撤去費 90 千円、配管工事 60 千円）、また、団地等に設置されている共同汚水処理施設の修繕費に対する補助（補助率 1/3）を開始した。 ○市民団体との連携等により、勢田川七ヶ大そうじやエコクッキング教室の開催、EM 浄化実験など、生活排水対策の啓発等を行っている。</p> <p>【自然とのふれあい】 ○市民団体等と連携しながら、キャンドルナイト伊勢、水生生物調査など、伊勢の自然を感じるイベントの開催を行った。 ○平成 25 年度には皇學館大学との連携により、伊勢市環境フェアにおいて、自然環境に興味・関心をもっていただくことを目的とした昆虫の展示、生態観察等を行った。</p> |
| | 公益的機能の保全 | <p>○環境保全林において、状況に応じて間伐を実施した。 ○遊休農地において、地域の農業団体等が行う景観作物の作付への支援や遊休農地を活用した営農を開始するための支援により農地の活用を図るとともに、学校給食における 100%市内米の米飯給食の推進や地産地消の店の認定（58 店 ※H25.10.31 現在）などの地産地消の取組みによる農業振興を図り、農地の保全を進めている。</p> |
| 歴史・文化の薫る、快適に暮らせるまち | 生活環境の保全 | <p>【まちの美化】 ○住民組織等との連携により、地域清掃や河川清掃などを実施しており、平成 25 年度には、伊勢市環境会議との連携により、お白石持ち行事の開始前週に奉曳コースの早朝清掃を行った。</p> <p>【住環境の向上】 ○道路交通振動・騒音の測定を行っているが、一部、環境基準を超える値が測定されている。交通対策として、年末年始等におけるパークアンドバスライドの実施、伊勢市駅手荷物預かり所やレンタサイクル等の環境整備を含めた鉄道利用のPR・利用促進、また、電気自動車等の活用検討等を開始している。</p> <p>【空き家対策】 ○年々増加する空き家の管理に関する相談に対し、任意指導以外の対策方法を構築していくため、平成 25 年度において、自治会と連携し空き家実態調査を行った。調査結果を市内の「廃屋・空き家対策検討会」にて検証し、具体的な施策を講じていく予定である。</p> |
| | 都市環境の保全 | <p>【景観形成】 ○平成 21 年 5 月に「伊勢市景観計画」を策定し、良好な景観の形成を図っている。内宮おはらい町地区・二見町茶屋地区においては、重点地区に指定するとともに建築物の修景に対して補助金を交付する仕組みを設けている。 ○市民が公共用地の花壇等に四季折々の植栽を行うことで、花に対する関心を高めてもらうことにより、市民参加の「花のまちづくり」の推進、おもてなし気運の醸成を図っている。</p> <p>【バリアフリー、ユニバーサルデザイン】 ○市民が利用する公園等、また、観光客の利用も多い伊勢市駅、宇治山田駅等において、段差解消やトイレのユニバーサルデザイン化、エレベーターの設置などに取組んでいる。 ○宿泊施設のバリアフリー化を支援したり、観光案内所で車いすの貸し出しを開始する等、バリアフリー観光の取組みを進めている。</p> |
| 協働でつくる、人と環境にやさしいまち | 環境教育・環境学習の強化 | <p>【環境教育・環境学習】 ○ごみの出し方等の出前講座の開催やエコドライブ講座の開催、環境フェア等のイベントの開催等により、環境学習の機会創出を行った。実施にあたっては、参加の呼び掛けや企画の充実等のため、自治会や事業者、住民団体や教育機関等との連携を図った。</p> <p>【小中学校における環境学習】 ○教育環境の充実のため、平成 23 年度には、市立の全小中学校において電力デマンド機を設置し、平成 24 年度からは、各校の創意工夫によるエネルギー環境教育の充実を目的とした活動費支援を開始した。 ○平成 23 年 9 月 30 日に京セラ株式会社三重伊勢工場及び中部電力株式会社と市において、環境教育に関する協定を締結し、各事業者が有する人材・学習教材を活用した出前授業を実施している。</p> |

| 基本目標 | 大項目 | 主な取組み |
|------------------------------------|------------------|---|
| <p>(続き) 協働でつくる、人と環境にやさしいまち</p> | <p>環境保全活動の推進</p> | <p>【伊勢市環境会議(伊勢市まちづくり市民会議 環境分科会)】 ○平成 19 年2月に、住民、事業者、団体、行政により設立された「伊勢市まちづくり市民会議」の分科会のひとつである「環境分科会」において、ごみ問題や生活排水対策に関する啓発活動等を実施してきた。 ○平成 24 年度末に「伊勢市まちづくり市民会議」が解散されたことから、これまでの活動を継続するため、平成 25 年度には「伊勢市環境会議」を設立した。</p> <p>【ええやんか！マイバッグ(レジ袋有料化)検討会】 ○平成 19 年に、地域の事業者や住民団体等との連携により「ええやんか！マイバック（レジ袋有料化）検討会」を構成し、レジ袋の有料化をスタートさせた。 ○レジ袋有料化による収益金については、事業者の理解のもと、環境活動に活用することとしており、環境活動の支援として 14 の団体等に補助金交付するとともに、平成 25 年度には、低炭素で豊かに暮らせる伊勢の実現のため、「電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会」にコムス 4 台の購入等経費として寄付をした。</p> <p>【電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会】 ○平成 24 年 8 月より、自動車関連事業者、充電器メーカー、地元経済団体やまちづくり団体等により、電気自動車等を活用した移動手段の新たな使い方を検討し、取組を進めることで「低炭素で豊かに暮らせる伊勢」を創造することを目的として、「電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会」を三重県の支援を受けて設立し、取組を進めている。</p> <p>【環境教育に関する協定】 ○平成 23 年9月 30 日に京セラ株式会社三重伊勢工場及び中部電力株式会社と市において、環境教育に関する協定を締結し、各事業者が有する人材・学習教材を活用した出前授業を実施している。</p> <p>【伊勢市と皇學館大学との連携に関する協定(環境ミーティング)】 ○皇學館大学と市は、文化・教育・学術等の分野で相互に機能向上を図るとともに、地域の活性化と人材の育成を図ることを目的に、平成 20 年7月 11 日に連携協定を締結しており、連携協定のスターティングプロジェクトとして、環境ミーティングが位置付けられている。 ○環境ミーティングは、平成 20 年度に第一回を開催し、平成 24 年度に開催した第 4 回目については、自動車関連事業者に電気自動車等の説明の協力を得て、電気自動車等の普及策等についての意見交換を行った。 ○平成 25 年度においては、教育学部生物学ゼミ生により、環境フェアにおいて昆虫を題材とした出展をいただくとともに、大学と市の連携についての意見交換を行った。</p> <p>【三重県地球温暖化防止センターとの連携】 ○環境フェアにおける省エネ診断の実施等の協力をいただくとともに、三重県地球温暖化防止推進センターが催す「みえ環境フェア」に伊勢市環境会議等が出展する等、相互連携を行っている。</p> |